

プラスチックの火災を抑制するアルミナ系材料「ベーマイト」

開発者名 河合石灰工業株式会社

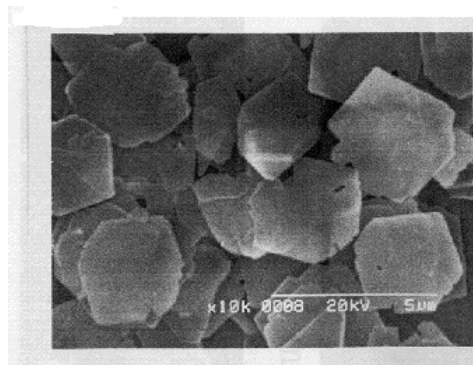
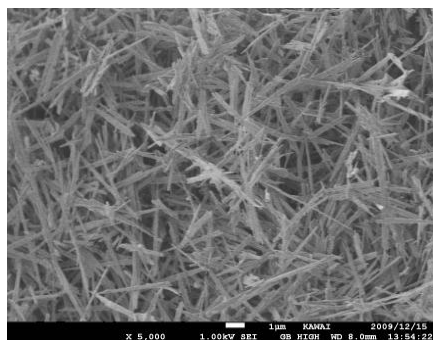
賢材分類

「ベーマイト」は、1925年にドイツ人の J. Bohm により発見され、その名「Boehmite」と名付けられた天然鉱物です。ベーマイトは代表的なセラミックス材料“アルミナ”の水和物であり、環境負荷の少ない材料であります。しかし、天然のベーマイトは純度が低いため工業的には、ほとんど利用されておられません。

人工的なベーマイトの合成は1960年頃、東京大学などで盛んに行われましたが、当時のニーズは少なく工業化はされませんでした。現在でも、ベーマイトを製造するメーカーは多くありません。

当社は、ベーマイトメーカーの中でも、形状コントロール技術の特徴としており、鱗片状、針状、粒状など様々な形状のベーマイトをご提供しております。

ベーマイトは結晶構造の中に水を持っていることからプラスチックの燃焼を抑制する難燃剤として利用されております。また、LEDやパワーモジュールの熱伝導材料や補強材として注目されております。



参考文献

—